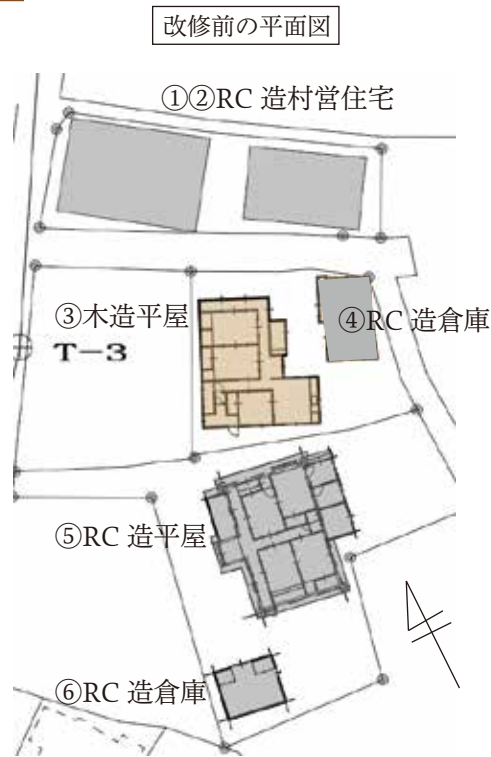


改修計画

□01 既存の空き家を活用した新しい介護拠点

大棚集落の一角の既存空き家を活用し、介護が必要な高齢者のための小規模多機能型居宅介護の拠点をつくる。現在対象敷地には木造・RC造の建物が倉庫も含め計6棟ある。元ある形を残しながら、通所・泊まり・訪問のサービスを提供するための空間と、島外からの移住者の受け入れ体制を整える。敷地内の建物は改修と一部増築として計画する。



▼①②RC 造村営住宅



▼③木造平屋



▼⑤RC 造平屋



北側2棟は移住者宿泊所と住宅型有料老人ホーム（RC改修）を設け、中央・南側2棟には通い・泊まり用の居室等を配置する（W改修+増築）。高齢者や移住者の生活の場だけでなく、共用ダイニングや土間、子供たちの遊び場、奄美ならではの蘇鉄畑を敷地の中に取り込む。そうすることで日々の暮らしの中に世代間わない多彩な交流が生まれ

西側道路から見た中庭の様子



□集落に点在する空き家活用例



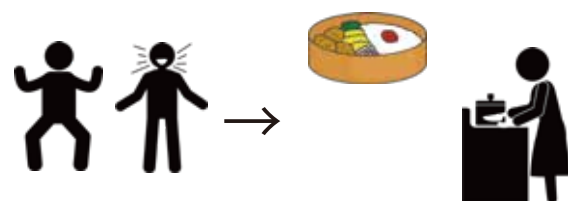
現在、大和村大棚集落にはおよそ20戸の空き家が存在する。地域の空き家を改修活用し、集落全体で住民の生活を支える多様な機能と場を整備し、空き家のネットワークが集落の生活を支える仕組みをつくる。



②高齢者のサポート拠点

ここでは、ビジネス拠点と似ているが、高齢者の一人暮らしや、一人ではできないことの手助けを地元住民と共同で支え合うシステムである。例えば、洗濯など動くのが大変なものを代行で行う場所を提供する。

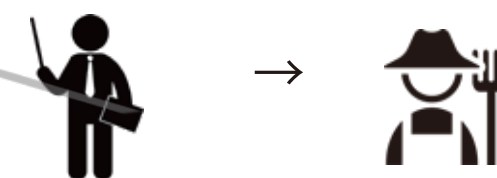
①高齢者が活躍する拠点



現地調査をした際、住民の中で退職した今でも元気で、料理を振舞ったり、ものを作ったりされている方がいる。そこをうまく活用するべく、高齢者同士の交流や、県外からの来客にも振る舞えるような場所を設ける。



③県外の人が活躍できる場・ビジネス拠点



県外の人が在住する際、ビジネスの拠点を鹿児島島の空き家によって、地元で馴染みやすくし、地元の方との交流を深める。また、農業や染物体験など、地元ならではの体験を空き家を使ってすることで、実際の生活感を楽しめる。

